

自動化の人間的な側面に重点を置く日立ヴァンタラ

HITACHI

AUTOMATION ANYWHERE
Go be great.

組織プロフィール

日立ヴァンタラは、日立データシステムズ、Hitachi Insight Group、および Pentaho の事業を 1 つの統合事業に統一することによって 2017 年に設立された、日立製作所の完全子会社です。インテリジェントオートメーションの力を活用したマーケットリーダーとして、同業他社から高く評価されています。

課題

日立ヴァンタラは、ロボティック・プロセス・オートメーション (RPA) を活用してプロセスの質と信頼性を向上させることを目指しながら、価値の低い日常作業からチームメンバーを解放することも主な目標としていました。それらが達成されれば、日常業務でもっとやり甲斐のある充実した業務、すなわち価値が高く従業員が関心を持てる業務に専念することができます。同社は、従業員の離職を最小限に抑えながら、さらに大きな規模で効率化を図れると期待しました。

日立ヴァンタラが目指した RPA には、コスト削減、エラーの排除、プロセスの迅速化も含まれていました。しかし、これらの目標よりも、従業員が有意義な仕事を通じて潜在能力を最大限に発揮することのほうが重要でした。

ソリューション

日立ヴァンタラは、主要 RPA ベンダーを評価した結果、オートメーション・エンジニアリングを選びました。標準的な RPA ソリューションに加えて、オートメーション・エンジニアリングの人工知能 (AI) コグニティブ技術である IQ Bot も使用することにしました。文書から半構造化データを抽出し、簡単に処理することができるからです。非標準の (半構造化) 請求書からデータを取得するため、IQ Bot は調達から支払までのプロセスで非常に役に立つことがわかりました。

メリット

10

本番環境への導入期間 (月数)

41

自動化されたプロセスの数

24 時間 365 日

RPA ソフトウェアロボット ("Bot") の継続的な業務時間

100%

エラーの削減

自動化されたプロセス

- 受注から回収まで
- 記録からレポートまで
- 調達から支払まで
- サービスデスクのプロビジョニングプロセス (IT)

業界
テクノロジー

「ロボティクスの導入を検討し始めたときの当社の主な目標は、日常的で反復的な業務からチームメンバーを解放することでした。」

ローリー・ペダーセン

日立ヴァンタラ、IT グローバル PMO 担当マネージャー

ストーリーの詳細

日立ヴァンタラが RPA の導入を検討し始めたとき、重視したのは主に 2 つの分野でした。IT 部門では、サービスデスクのプロビジョニングおよびプロビジョニング解除プロセスについて、自動化が必要とされました。対象になったのは 10 のプロセスでした。財務部門では、受注から回収まで、記録からレポートまで、および調達から支払までのプロセスの合理化が必要とされました。最大で合計 20 のプロセスがあり、この計画の初期段階で自動化を目標としたプロセスの数は合計 30 に達しました。最終的に、フェーズ 1 では 41 のプロセスが自動化されました。

調達から支払までのプロセスを詳しく調べると、以前は 発注番号、日付、調達対象のサービスまたは製品、金額などの情報を従業員がベンダーの請求書から読み取り、Oracle ERP システムに入力していました。退屈で反復的な作業です。どれほど膨大な量をわかりやすく言うと、20 以上の言語で 1,000 社を超えるベンダーから毎年 80,000 件以上の請求書を処理しています。そのすべてを手作業で行う必要があったのです。

現在、日立ヴァンタラは、ベンダー、形式、言語に関係なく、このような請求書から情報をインテリジェントに抽出できる 35 の Bot を運用しています。オートメーション・エンジニアの IQ Bot を導入したおかげで、請求書の 75% は人手を介さず電子的に処理できるようになりました。

今後の展望

フェーズ 1 では財務および会計部門の 41 のプロセスを自動化しました。

フェーズ 2 では、FP & A、グローバルタックス、グローバルソーシング、会計に焦点を当て、50 以上のプロセスを自動化します。

日立ヴァンタラはフェーズ 1 で多くのことを学び、今後この知識を応用していく予定です。たとえば、自動化を拡大して成果を達成するには、自動化を戦略的に優先する必要があることもわかりました。また、プロセスのできるだけ早い段階で該当業務の専門家も関与させるべきであることも学びました。最終的には、主な利害関係者として IT やインフラストラクチャチームも最初からプログラムに関わることとなります。

「Bot に切り替えたことで、エラーの数についてもデータの精度についても改善されたことは歴然でした。」

ローリー・ペダーセン

日立ヴァンタラ、IT グローバル PMO 担当マネージャー

Automation Anywhereについて

オートメーション・エンジニアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

製品に関するお問い合わせやデモをご希望の場合は、下記ホームページ、もしくはメールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere  www.automationanywhere.com/jp  contact_japan@automationanywhere.com

 @AutomationAnwJP  www.facebook.com/AutomationAnywhJP/

Automation Anywhere ©2019

2019年6月、バージョン1

